

平成21年 4月 1日現在

研究種目：基盤研究（C）
 研究期間：2007～2008
 課題番号：19520679
 研究課題名（和文）：地方地場産業の生存戦略と海外展開に関する地理学的研究
 研究課題名（英文）：Survival strategies of a local industry and the characteristics of its overseas operations: A case study of the glove-related industry in Eastern Kagawa, Japan
 研究代表者：
 平 篤志（TAIRA ATSUSHI）
 香川大学・教育学部・教授
 研究者番号：10253246

研究成果の概要：本研究は、東かがわ市を中心に展開する手袋産業を事例とし、地方地場産業の生存戦略と海外展開の特徴を地理学的観点から解明することを目的とした。その結果、事例企業群は、長年地場で培ってきた商品生産の知識と技術を生かして地域ブランドを形成する一方、早くから海外に展開し、現在中国に主たる生産拠点を、欧米に仕入販売拠点を設置して、日本（地場）との間にグローバルなネットワークを構築していること、地場では専門的知識技術伝承プログラムを立ち上げ、頭脳としての地場の維持に努めていることが明らかになった。

交付額

(金額単位：円)

| | 直接経費 | 間接経費 | 合計 |
|--------|-----------|---------|-----------|
| 2007年度 | 900,000 | 270,000 | 1,170,000 |
| 2008年度 | 900,000 | 270,000 | 1,170,000 |
| 年度 | | | |
| 年度 | | | |
| 年度 | | | |
| 総計 | 1,800,000 | 540,000 | 2,340,000 |

研究分野：人文地理学

科研費の分科・細目：人文地理学

キーワード：産業配置

1. 研究開始当初の背景

1980年代後半以降、日本経済のグローバル化が急速に進行し、日本はいわゆる国際化の時代を迎えた。この動きを先導したのは、繊維、石油化学、鉄鋼、自動車、電器といった製造業を中心とする大手企業であった。しかし、その後大手の動きを追うように、中小企業の海外展開が活発になった。その背景には、企業間の競争の激化に伴う人件費対策と新規市場開拓の必要性の高まりがあった。日本では、周知のように、政治的側面のみなら

ず、経済的諸機能の首都東京への一極集中がみられるが、大都市圏以外の地方に本拠をおきながら、国内市場において高い製品占有率をもち、合わせて積極的な海外展開を行っている中小企業も少なくない。一方で、地方では、人口減少がつづく中で地域経済が停滞し、明るい未来を描けないところが多い。新規企業の進出を誘致すべく、工業団地等高度なインフラを備えた空間を整備しても、肝心の企業立地につながらない事例が少なくない。しかしながら、上に記したよ

うな有力な中小企業群が存在する場合は、その企業群を中心に、新たな産業クラスターを構築することも不可能ではない。また、当該企業群の海外進出先地域との連携を強め、地域全体の国際化を推進することも地域発展戦略の1つとして捉えられよう。

2. 研究の目的

本研究は、大都市圏以外の地方に立地する地場産業企業群の生存戦略とその海外展開の特徴を地理学的な視点から明らかにすることを目的とする。具体的には、香川県東部地域の東かがわ市を中心に展開する手袋製造企業群を事例として取り上げる。

本研究の意義は、日本国内において地場産業地域を構成する中小企業群のグローバル戦略に着目する点にある。近年の議論にあるようにローカル、ナショナル、グローバルスケールの諸事象は、相互に影響を及ぼしあっている。このような時代にあって、企業は異なるスケールからの要求に同時に対応し、適応することが求められる。グローバルとローカルをつないだグローバルという語は、そのような時代の要請から生まれた言葉といえる。しかしながら、グローバルな減少に関する議論は、これまで表面的なものに終始する傾向が強く、グローバルな事象の現実の姿を明らかにした実証的な研究は少ない。一方で、その実証研究自体も、大企業を事例とした研究が中心であり、中小企業の、あるいはそれらが中核をなす地場産業のグローバル戦略に着目した研究は多くない。中小企業群の存在、あるいは地場産業の存在は、それらが立地する地域において非常に重要な役割を果たしてきた。また、今後もその役割が維持・発展されることが求められている。

3. 研究の方法

本研究は、上述したように、香川県東部地

域に展開する手袋製造業に着目して、国際競争時代における地場産業地域の生存戦略と海外展開の特徴を地理学的視点にたって解明しようとするものである。具体的には、まず地場における企業集積の空間パターン、企業間連関、そして地域に埋め込まれ、育まれた知識・情報の共有の態様まで明らかにしようとした。その後、手袋産業の海外展開の特徴、つまり海外進出地域での生産形態、地元取引企業との関係、進出国別の役割分担、そして海外生産拠点と国内生産拠点との役割分担について説明し、地方地場産業のグローバル戦略の空間構造を明示しようとした。

研究方法として、まず、各種統計類、関連資料の分析を通じて、研究対象である東かがわ市の手袋産業の日本国内における位置づけを行った。並行して、当該産業の発展の経緯を、同業者組合や商工会、代表的な企業の社史等を資料として検討した。つづいて、手袋産業の全体的な空間的特徴を分析した。具体的には、企業名簿等を用いて、企業の立地パターンを明らかにした。同時に、集積地域内部における企業間連関の特徴を、同業者組合や商工会での聞き取り、一次・二次資料の分析により説明した。さらに、集積地域外との関係に関して、国内他地域と海外展開にわけて、その背景と現状について全体的な特徴を把握した。その上で、いくつかの事例企業を取り上げて、これまでの経営展開（集積地域内部と海外展開を含めた集積地域外部を合わせて）と今後の生存戦略に関する聞き取り調査を実施した。

つづいて、地場産業を構成する企業の海外展開の特徴に焦点を当てた。まず、手袋産業を構成する地場企業の海外展開の全体的な特徴を、団体資料等の分析を通じて明らかにした。次に、海外展開が積極的に行われている国・地域において現地調査を実施した。具

体的には、進出数の最も多い中国（上海地域）を調査対象国とした。具体的な調査項目は、進出先の選定理由（立地要因）、人事・生産部門を中心とした経営の特徴（経営現地化の実態および国内本社との関係）、取引先企業との関係などである。

4. 研究成果

本研究は、香川県東部地域に展開する手袋産業を事例として、大都市圏以外の地方に立地する地場産業企業群の生存戦略とその海外展開の特徴を地理学的な視点から明らかにしようとした。研究結果は以下のようにまとめられる。

東かがわ地域を中心とする手袋産業は、現在でもなお国際市場の90%を占め、香川県が全国に誇る地場産業の1つである。手袋産業を構成する企業は、約200社ありその多くが中小企業である。当産業は、国内市場に製品を供給するのみならず、海外への輸出用に生産を行って、日本有数の生産基地として発展してきた。しかし、その後国際競争の激化によって国内からの輸出力が低下し、内需へより重心を置く戦略転換が行われる一方で、早くから企業自身の海外展開を積極的に行ってきた。内需では、冬季用の一般手袋にとどまらず、スポーツ用手袋、ファッション系手袋、UVカット用手袋といった多様な製品が開発されてきた。国内の主要な取引先は、全国の百貨店、専門店、量販店である。

一方で、生産品目を多様化する観点から、手袋以外の商品の開発も行われてきた。編み手袋の技術を応用してホームカバー等が生み出された。また、革手袋の素材、加工技術を生かした関連製品として、かばん等の袋物・革衣料も生産されるようになった。現在、当産地は、手袋を母体とした横網、皮革などの素材・加工技術を生かした身の回り製品全

般を扱う総合産地化への脱皮を図っている。個別メーカーの中には、手袋を生産しながら同時に多様な関連製品を生産する企業がある一方で、手袋製造専門企業もあり、生産形態・企業形態は多様であり、当該地域は国内の他の地場産業地域にはみられない独自の特徴をもつ。

また、東かがわ地域の手袋産業は、地場での生産に固執せず、1970年代という国内の企業の中でも早いうちから積極的に海外展開を行ってきた。この早い海外展開の背景には、日本の経済成長による、手袋製造業を含む労働集約的製造業部門での人手不足があった。海外への進出形態は、当初は海外企業との生産提携関係の構築が主であったが、時を経ずして現地法人の設立をみている。進出国・地域は、まず近隣の韓国、台湾から始められ、当該地域の経済成長による人件費の高騰に伴って、中国やインドネシア、スリランカといった東南・南アジアに生産拠点がシフトしていった。なかでも中国は、生産拠点のみならず、製品検査を含む流通の拠点として、さらに一部では製品開発の拠点機能をも果たしている。近年ではさらに、海外の市場地域への進出が活発化しており、アメリカ合衆国やヨーロッパ（スイス、イタリア）にも販売・仕入れ等のための拠点が設立され、日本の地場の中小企業群を核としたグローバルな経営ネットワークが構築されつつある。

中国を含む開発途上国向けの戦略としては、生産基地としての位置づけのみならず、今後はその経済成長に対応した市場地域としての位置づけも重要となる。特に、中国は13億という巨大な人口をもち、富裕層の増加も著しい。近年、レジャーやスポーツへの関心も高まりつつある。各種手袋の販売先開拓の可能性は十分にあると思われる。その他、ロシアなど欧米地域以外の市場の開拓も求

められよう。

東かがわ地域の手袋産業が日本国内において先導的な地位を維持している要因は、主に3点ある。1点目は、革新的な環境とプロフェッショナルな意識を創造する高度な技術・知能労働者が存在すること、2点目は1点目と関連して、その革新的な環境を維持するメカニズム、言い換えれば地理的に埋め込まれた学習地域が存在することである。そして3点目は、各社が自立的な独自ブランドの確立を目指すことによって全体として地域ブランドの育成につながるという、地場企業群同士の競争的協働関係の存在である。いずれにしても、東かがわ地域の手袋産業にとって、今後とも積極的かつ柔軟なグローバル戦略を構築しそれを実行していくことが重要となる。

5. 主な発表論文等

〔学会発表〕(計 3 件)

- ① 平 篤志, 国際経済・経営地理学の課題と展望, 経済地理学会西南支部例会, 2008年4月19日, 大阪市立大学
- ② Taira Atsushi, Survival strategies of a local industry and the characteristics of its overseas operations: A case study of the glove-related industry in Eastern Kagawa, 31st International Geographical Congress, 2008年8月13日, Tunis, Tunisia
- ③ Taira Atsushi, Survival strategies of a local industry and the characteristics of its overseas operations: A case study of the glove-related industry in Eastern Kagawa, Japan, 3rd Korea-China-Japan Joint Conference on Geography, 2008年10月10日, 清州大学(韓国)

6. 研究組織 (1) 研究代表者

平 篤志 (TAIRA ATSUSHI)
香川大学・教育学部・教授
研究者番号: 10253246